

香川県商工会地区 中小企業景況調査報告書

2019年度 第2回 (2019年 7月～9月期)

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料及び中小企業施策へ反映させるため、全国商工会連合会が中心となり昭和54年から四半期毎に全国一斉に実施しているものです。

DIとは、各調査項目について《増加・上昇・好転》の割合から《減少・低下・悪化》の割合を差し引いた値で《景気動向指数》を表しています。

* 記号とDI値の関係は次のとおり

 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨
30.1～	10.1～30.0	10.0～△10.0	△10.1～△30.0	△30.1～

調査対象地区：15商工会地区

(東かがわ市、さぬき市、小豆島町、土庄町、三木町、高松市牟礼庵治、高松市中央、直島町、綾川町、丸亀市飯綾、宇多津、まんのう町、琴平町、三豊市、観音寺市大豊)

対象企業数：150社 (製造業31社、建設業15社、小売業44社、サービス業60社)

県内商工会地区の業種毎の主要項目のあらまし

項目 \ 業種	製造業	建設業	小売業	サービス業
今期の実績				
業況	 △26.7	 △26.7	 △41.0	 △18.6
売上額 (完成工事額)	 △12.9	 △26.6	 △40.9	 △18.3
採算	 △25.8	 △33.4	 △47.8	 △18.4
資金繰り	 △26.7	 △13.3	 △47.7	 △11.9
来期の見通し				
業況	 △23.3	 △26.6	 △45.5	 △26.7
売上額 (完成工事額)	 △6.5	 △40.1	 △59.2	 △30.0
採算	 △19.4	 △40.0	 △47.8	 △31.7
資金繰り	 △20.0	 △26.7	 △47.7	 △16.9

業況

今期の業況は、前年同期に比べて製造業は「悪化」、建設業は「依然不調」、小売業は「依然不調」、サービス業は「マウス域ながらやや好転」としている。また、来期見通しは、前年同期に比べて製造業は「依然不調」、建設業は「横ばい」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「横ばい」を予測している。

売上額 (完成工事額)

今期の業況は、前年同期に比べて製造業は「マウス域ながら好転」、建設業は「大きく悪化」、小売業は「依然不調」、サービス業は「マウス域ながら好転」としている。また、来期見通しは、前年同期に比べて製造業は「好転」、建設業は「更に悪化」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「依然不調」を予測している。

採算

今期の業況は、前年同期に比べて製造業は「横ばい」、建設業は「依然不調」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「マウス域ながら好転」としている。また、来期見通しは、前年同期に比べて製造業は「依然不調」、建設業は「大きく悪化」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「依然不調」を予測している。

資金繰り

今期の業況は、前年同期に比べて製造業は「更に悪化」、建設業は「悪化」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「マウス域ながらやや好転」としている。また、来期見通しは、前年同期に比べて製造業は「マウス域ながらやや好転」、建設業は「横ばい」、小売業は「大きく悪化」、サービス業は「マウス域ながらやや好転」を予測している。

業 種 別 景 気 動 向

【 製 造 業 】

期 \ 項目		業 況	売 上 額	採 算	資 金 繰 り	
対前年比	①	2018年 7月～ 9月期	△19.4	△25.8	△25.8	△12.9
	②	2018年10月～12月期	△22.5	△29.0	△16.2	△26.7
	③	2019年 1月～ 3月期	△16.6	△22.5	△25.8	△9.6
	④	2019年 4月～ 6月期	△16.1	△12.9	△22.6	△9.6
	今期	2019年 7月～ 9月期	△26.7	△12.9	△25.8	△26.7
	来期見通	2019年10月～12月期	△23.3	△6.5	△19.4	△20.0

業 況

今期は、前年同期と比べて、「-7.3ポイント」と、悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-0.8ポイント」と、依然不調を予測している。

売上額（完成工事額）

今期は、前年同期と比べて、「+12.9ポイント」と、マックス域ながら好転している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+22.5ポイント」と、好転すると予測している。

採 算

今期は、前年同期と比べて、「+0.0ポイント」と、横ばいである。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-3.2ポイント」と、依然不調を予測している。

資 金 繰 り

今期は、前年同期と比べて、「-13.8ポイント」と、更に悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+6.7ポイント」と、マックス域ながらやや好転すると予測している。

【 建 設 業 】

期 \ 項目		業 況	完 成 工 事 額	採 算	資 金 繰 り	
対前年比	①	2018年 7月～ 9月期	△26.6	△6.7	△33.4	△6.6
	②	2018年10月～12月期	△26.6	△33.3	△20.0	△33.3
	③	2019年 1月～ 3月期	△13.4	△13.3	△20.0	△20.0
	④	2019年 4月～ 6月期	△46.6	△40.1	△59.9	△26.7
	今期	2019年 7月～ 9月期	△26.7	△26.6	△33.4	△13.3
	来期見通	2019年10月～12月期	△26.6	△40.1	△40.0	△26.7

業 況

今期は、前年同期と比べて、「-0.1ポイント」と、依然不調である。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+0.0ポイント」と、横ばいを予測している。

売上額（完成工事額）

今期は、前年同期と比べて、「-19.9ポイント」と、大きく悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-6.8ポイント」と、更に悪化すると予測している。

採 算

今期は、前年同期と比べて、「+0.0ポイント」であるものの、依然不調である。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-20.0ポイント」と、大きく悪化すると予測している。

資 金 繰 り

今期は、前年同期と比べて、「-6.7ポイント」と、悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+6.6ポイント」と、横ばいを予測している。

【小売業】

期 \ 項目		業況	売上額		採算		資金繰り			
対前年比	①	2018年7月～9月期		△45.4		△45.4		△29.6		△38.6
	②	2018年10月～12月期		△29.6		△34.0		△31.9		△29.5
	③	2019年1月～3月期		△40.9		△47.8		△43.2		△31.8
	④	2019年4月～6月期		△50.1		△43.2		△46.5		△47.7
	今期	2019年7月～9月期		△41.0		△40.9		△47.8		△47.7
	来期見通	2019年10月～12月期		△45.5		△59.2		△47.8		△47.7

業況

今期は、前年同期と比べて、「+4.4ポイント」であるものの、依然不調である。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-15.9ポイント」と、大きく悪化すると予測している。

売上額（完成工事額）

今期は、前年同期と比べて、「+4.5ポイント」であるものの、依然不調である。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-25.2ポイント」と、大きく悪化すると予測している。

採算

今期は、前年同期と比べて、「-18.2ポイント」と、大きく悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-15.9ポイント」と、大きく悪化すると予測している。

資金繰り

今期は、前年同期と比べて、「-9.1ポイント」と、大きく悪化している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-18.2ポイント」と、大きく悪化すると予測している。

【サービス業】

期 \ 項目		業況	売上額		採算		資金繰り			
対前年比	①	2018年7月～9月期		△25.0		△28.3		△31.7		△18.6
	②	2018年10月～12月期		△28.4		△28.3		△30.0		△24.1
	③	2019年1月～3月期		△28.3		△21.7		△33.3		△22.4
	④	2019年4月～6月期		△13.5		△18.3		△18.3		△8.7
	今期	2019年7月～9月期		△18.6		△18.3		△18.4		△11.9
	来期見通	2019年10月～12月期		△26.7		△30.0		△31.7		△16.9

業況

今期は、前年同期と比べて、「+6.4ポイント」と、マックス域ながらやや好転している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+1.7ポイント」と、横ばいを予測している。

売上額（完成工事額）

今期は、前年同期と比べて、「+10.0ポイント」と、マックス域ながら好転している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-1.7ポイント」と、依然不調を予測している。

採算

今期は、前年同期と比べて、「+13.3ポイント」と、マックス域ながら好転している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「-1.7ポイント」と、依然不調を予測している。

資金繰り

今期は、前年同期と比べて、「+6.7ポイント」と、マックス域ながらやや好転している。
来期の見通しは、前年同期と比べて、「+7.2ポイント」と、マックス域ながらやや好転すると予測している。

設備投資の状況

【製造業】

今期は8企業（調査対象の25.8%）が「生産設備」「車両・運搬具」「OA機器」「その他」に設備投資を実施。また、来期は6企業（対象企業の19.4%）が「生産設備」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」への設備投資を計画。

【建設業】

今期は3企業（調査対象の20.0%）が「建設機械」「車両・運搬具」「OA機器」に設備投資を実施。また、来期は1企業（対象企業の6.7%）が「OA機器」への設備投資を計画。

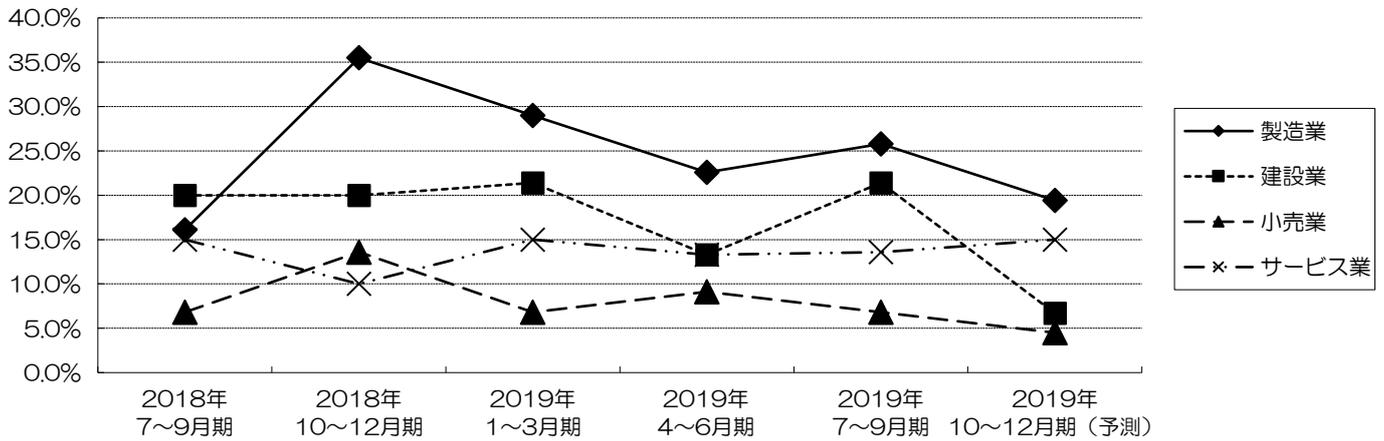
【小売業】

今期は3企業（調査対象の6.8%）が「販売設備」「車両・運搬具」「OA機器」に設備投資を実施。また、来期は2企業（対象企業の4.5%）が「店舗」「販売設備」への設備投資を計画。

【サービス業】

今期は8企業（調査対象の13.3%）が「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」「その他」に設備投資を実施。また、来期は9企業（対象企業の15.0%）が「建物」「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」「その他」への設備投資を計画。

新規設備投資グラフ



経営上の問題点

【1番の問題点として回答された上位3項目】

【製造業】

1位	「需要の停滞」
2位	「生産設備の不足・老朽化」
3位	「従業員の確保難」

【建設業】

1位	「請負単価の低下、上昇難」
1位	「民間需要の停滞」
3位	「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」

【小売業】

1位	「大型店・中型店の進出による競争の激化」
2位	「購買力の他地域への流出」
3位	「需要の停滞」

【サービス業】

1位	「新規参入業者の増加」
1位	「利用者ニーズの変化」
3位	「需要の停滞」

【回答のあった問題点の上位3項目を集計した順位】

【製造業】

1位	「需要の停滞」
2位	「原材料価格の上昇」
2位	「従業員の確保難」

【建設業】

1位	「熟練技術者の確保難」
1位	「民間需要の停滞」
2位	「材料価格の上昇」「請負単価の低下、上昇難」

【小売業】

1位	「購買力の他地域への流出」
2位	「需要の停滞」
3位	「大型店・中型店の進出による競争の激化」

【サービス業】

1位	「利用者ニーズの変化」
2位	「需要の停滞」
3位	「材料等仕入単価の上昇」